

令和7年度 文部科学省委託事業

「いじめ・不登校等の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究」

報告書

栃木県教育委員会事務局義務教育課

いじめ対策・不登校支援等推進事業

（いじめ・不登校等の未然防止等に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究）

事業実施報告書

【研究の要約】

本県では、「義務教育の段階における普通教育に相当する機会の確保等に関する法律」及び基本指針を踏まえ、不登校児童生徒に対する支援の充実を図ることができるよう、令和2年度から、継続的に市町教育委員会を対象とした実態調査を実施し、教育支援センター及びフリースクールなどの民間施設等（以下、教育支援センター等とする）の状況を把握してきた。調査結果では、教育支援センター等に通所する経済的に困窮する家庭が増加傾向にあることがわかり、経済的に困窮した家庭に対する経済的支援が不登校児童生徒の社会的自立に与える効果等について、令和3年度から本事業を活用し継続して検証を行ってきた。

令和3年度の調査研究では、経済的な支援が不登校児童生徒の社会的自立に与える影響を調査・分析することができるよう、調査対象を「申請者（主に保護者）」、「教育支援センター等の担当者」とし、令和4年度には「当該児童生徒」を追加することで、当該児童生徒の生活や学習の様子の変容等を把握して、その効果について検証した。令和5年度は、主に「人間関係形成」及び「自己実現」の観点から、本県独自の学力調査（質問紙調査）との関連を踏まえて詳細な調査を行い、令和6年度は、「人間関係形成」及び「自己実現」の観点について、より深く分析することができるよう、アンケート項目の内容について検討・改善を図るとともに、継続して本事業を利用している同一の保護者や児童生徒を対象とした経年変化分析や、保護者と児童生徒の調査結果をクロス集計により、本事業を継続して利用することによる保護者の意識の変化や子供との関係性等の変容が、当該児童生徒に与える影響などについて分析した。

調査研究を通して、人間関係を形成しようとしたり、自分で目標を決めて行動するなど、主体的に活動しようとしたりする不登校児童生徒が増加する傾向が見られたことから、本事業の支援を通じて、「人間関係形成」および「自己実現」に大きく寄与することが確認できた。また、児童生徒の通所により、保護者の心的な余裕が生まれ、保護者と児童生徒との関係にも良い効果が生まれていることも明らかとなった。さらには、本事業を継続して利用している児童生徒の経年変化分析から、保護者と児童生徒との関係が向上し、継続的な通所につながったことから、通所する児童生徒の具体的な様子から、キャリア形成や学校復帰などにつながっていく事例も見られた。

そこで、令和7年度には、以下のことについて、重点的に調査研究を行った。

- 1 令和3年度から継続して調査分析してきた本県の実績を生かし、児童生徒の「人間関係形成」や「自己実現」の観点から、社会的自立に向けた意識の変化等の教育的効果について、より深く分析することができるよう、保護者及び児童生徒対象のアンケート項目の内容を検討・改善するとともに、経年変化分析やクロス集計を通して、これまでの考察の妥当性などを分析した。
- 2 保護者と教育支援センター等との連絡体制や、成績評価に対する在籍校との連携についての実態を細やかに把握し、当該児童生徒の通所回数の変化や学習状況の変容、保護者や児童生徒に与える行動面や心理面での影響などについて調査した。

調査研究を通して、本事業による支援が児童生徒の「人間関係形成」及び「自己実現」に寄与することを改めて確認することができた。加えて、保護者の心的な余裕から児童生徒との関係にも良い影響が及んでいるについても、改めて確認することができた。

また、本事業を継続して利用している児童生徒を対象とした経年変化分析からは、保護者と児童生徒との関係の向上が継続的な通所につながり、学習に対する意欲向上に結びついていく傾向も見られた。これらの結果から、本事業による支援は、保護者、児童生徒に対して非常に大きな効果があると考えられる。

保護者と教育支援センター等との連携については、定期的な情報共有を通して、児童生徒の社会的自立を目指した支援が行われていることが確認できた。一方、在籍校と教育支援センター等との連携については、生活面や体験活動に関する情報共有が中心となっており、学習面に関する情報共有については、一部にとどまっていることが明らかとなった。

## 1 実施団体

(1) 実施団体名 栃木県教育委員会

(2) 所在地

(〒320-8501) 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20

(3) 代表者役職・代表者氏名 栃木県知事 福田 富一

## 2 事業の実施期間 受託日から令和8年3月31日

## 3 事業の実績

### (1) 選択テーマ

いじめ・不登校等の未然防止等に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究

① 経済的に困窮した家庭の不登校児童生徒に対する経済的支援の在り方に関する調査研究

### (2) 事業の内容

不登校児童生徒とともに経済的支援を必要とする家庭が増加している状況に対し、不登校児童生徒が、教育支援センター等で活動を行うために必要な経費の支援を行うことにより、経済的支援が不登校児童生徒の社会的自立に与える効果等について、検証を行う。

なお、検証方法は、アンケート（児童生徒対象、保護者対象、教育支援センター等の職員を対象）や聞き取り調査とする。

### **不登校児童生徒に対する経済的支援推進事業**

① 目的 「義務教育の段階における普通教育に相当する機会の確保等に関する法律」及び同法に基づき策定された基本方針を踏まえ、経済的な理由で教育支援センター等に通うことが困難な児童生徒についても社会的自立に向けた学習等の活動に取り組むことができるよう支援を行う。

② 主体 栃木県教育委員会

③ 期間 1年間

④ 内容 経済的に困窮した家庭の不登校児童生徒が、教育支援センター等で活動を行うために必要な経費の支援を行う。  
現行の就学援助における援助額を踏まえ、県教育委員会が支援金の額を設定した上で、当該児童生徒の保護者に直接支払う。

⑤ 支給対象者 公立小・中学校及び義務教育学校（以下「小・中学校」）に在籍する児童生徒の保護者のうち、次のア～オの全てに該当する者とする。  
ア 栃木県内に住所を有すること。  
イ 当該児童又は生徒が、事業実施年度において、教育支援センター等で学ぶ不登校児童生徒であること。  
ウ 当該児童又は生徒が在籍する小・中学校において、当該学校と十分な連携・協力関係の下、教育支援センター等での活動により、指導要録上「出席扱い」となっていること。  
エ 当該児童又は生徒の保護者が、学校教育法第19条に規定する「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者」に相当する者で、住所を有する市町から就学援助の認定を受けている者など経済的に困窮している者。ただし、就学援助等、他の制度により通学費、校外活動費が全て支給されている場合は除く。 ※  
オ 文部科学省の「いじめ対策・不登校支援等推進事業委託事業」による調査研究であることから、当該児童および生徒の保護者が、アンケート等の調査に協力し、同意できること。

※ 令和7年度の事業を実施するにあたり、支給対象者の枠組みを見直し、これまでの就学援助の認定を受けている者に加え、住民税非課税世帯に該当する者についても支給対象者に含めることとした。

⑥支給対象経費 教育支援センター等に通うための交通費及び体験活動や実習等に要する実費

【交通費】

- 1 公共交通機関等を利用した場合の運賃
- 2 自家用車を利用した場合の燃料代

【体験活動や実習等に要する実費】

- 1 ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動に係る実費
- 2 交流に関わる体験活動（異なる地域の人々や異年齢との交流、高齢者との世代間交流）に係る実費
- 3 自然に関わる体験活動に係る実費
- 4 勤労生産に関わる体験活動に係る実費
- 5 文化や芸術に関わる体験活動に係る実費
- 6 宿泊を伴う体験活動に係る実費
- 7 その他の体験活動に係る実費
- 8 実習に係る実費
- 9 その他、教育委員会が必要と認める経費

⑦申請状況

- ・ 申請者を対象児童生徒の校種ごとにみると、対象児童生徒 27 名のうち、小学生が 9 名、中学生が 18 名であり、昨年度同様、中学生の保護者からの申請が多い（表 1）。
- ・ 申請者を対象児童生徒の所属ごとにみると、対象児童生徒 27 名に対し、教育支援センターが 25 名、民間施設・団体等が 2 名であり、教育支援センターに通所する児童生徒の保護者からの申請が多い（表 2）。
- ・ 令和 6 年度対象児童生徒 29 名のうち、中学 3 年生を除く人数は 23 名であった。そのうち、令和 7 年度も継続して申請したのは 14 名である（表 3）。

|      |     | 対象児童生徒数（人） |    |    |    |    |     |    |    |    |    |
|------|-----|------------|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|
| 校種   |     | 小学校        |    |    |    |    | 中学校 |    |    |    | 合計 |
| 学年   |     | 3年         | 4年 | 5年 | 6年 | 合計 | 1年  | 2年 | 3年 | 合計 |    |
| 申請者数 | R 3 | 1          | 0  | 1  | 1  | 3  | 3   | 3  | 6  | 12 | 15 |
|      | R 4 | 0          | 1  | 2  | 1  | 4  | 3   | 5  | 6  | 14 | 18 |
|      | R 5 | 0          | 0  | 3  | 2  | 5  | 1   | 6  | 4  | 11 | 16 |
|      | R 6 | 0          | 2  | 2  | 6  | 10 | 7   | 6  | 6  | 19 | 29 |
|      | R 7 | 1          | 2  | 4  | 2  | 9  | 5   | 6  | 7  | 18 | 27 |

表 1 校種別対象児童生徒数

|          | 年度  | 対象児童生徒数（人） |     |
|----------|-----|------------|-----|
|          |     | 小学校        | 中学校 |
| 教育支援センター | R 3 | 2          | 10  |
|          | R 4 | 2          | 13  |
|          | R 5 | 4          | 10  |
|          | R 6 | 7          | 19  |
|          | R 7 | 7          | 18  |
| 民間施設・団体等 | R 3 | 1          | 2   |
|          | R 4 | 2          | 1   |
|          | R 5 | 1          | 1   |
|          | R 6 | 3          | 0   |
|          | R 7 | 2          | 0   |

表 2 所属別対象児童生徒数

| 年度  | 対象児童生徒数（人） |    |    |
|-----|------------|----|----|
|     | 新規         | 継続 | 合計 |
| R 3 | 15         |    | 15 |
| R 4 | 12         | 6  | 18 |
| R 5 | 11         | 5  | 16 |
| R 6 | 21         | 8  | 29 |
| R 7 | 13         | 14 | 27 |

表 3 新規・継続別対象児童生徒数

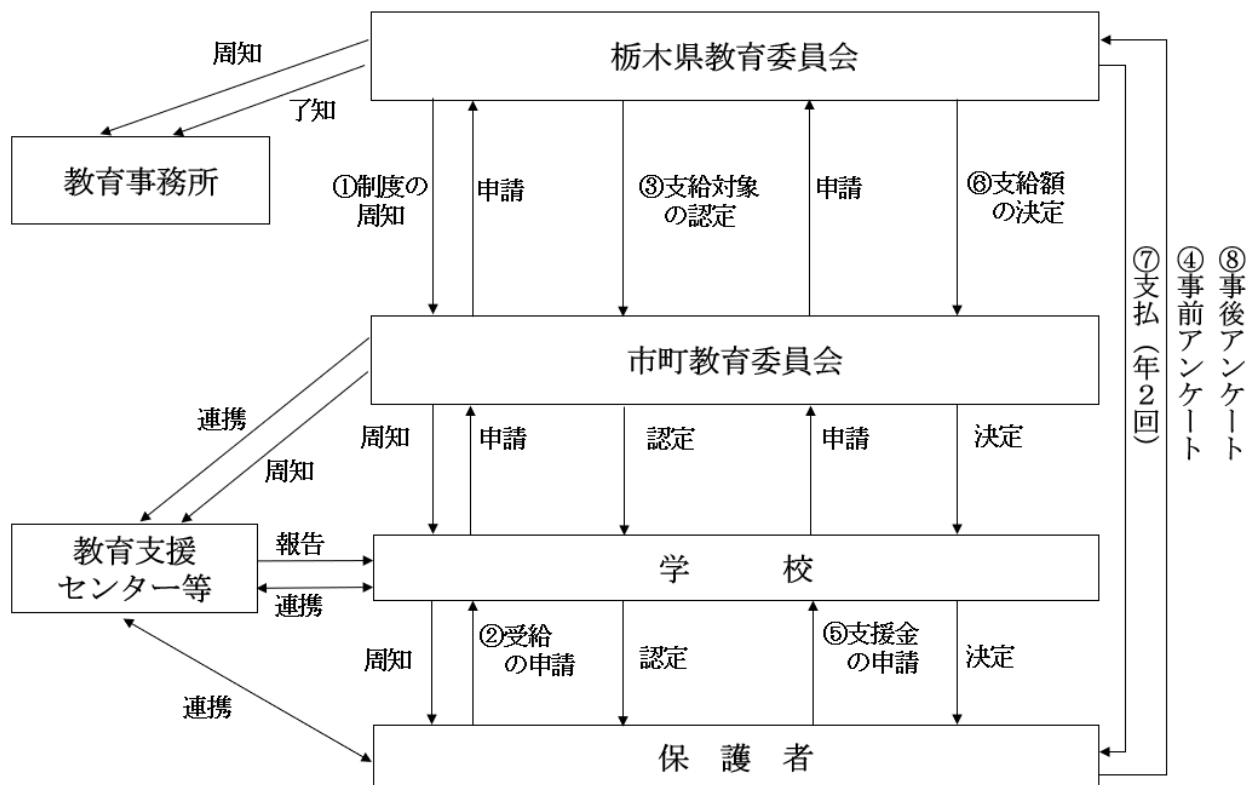
# ⑧申請額の内訳

- ・ 申請者 27 名に対し、支給総額は 305,202 円である。対象経費ごとにみると、交通費が 248,336 円、活動費が 56,866 円である（表 4）。
- ・ 昨年度同様に、活動費に比べ交通費の割合が多く、近距離であっても、児童生徒が保護者による送迎や公共交通機関を利用し、通所している家庭が多い。
- ・ 活動費の支給総額に占める割合は、約 9 割が教育支援センターでの活動費であり、例年に比べて民間施設・団体等に通所する申請者からの活動費の申請は、少なかった。月ごとの申請では、交通費と活動を合わせて上限 1 万円を超えているか、それに迫る申請額もあった。

|        |      | 教育支援センター | 民間施設・団体等 | 支給総額    |
|--------|------|----------|----------|---------|
| 支給額（円） | R 3  | 113,362  | 90,000   | 203,362 |
|        | （内訳） |          |          |         |
|        | 交通費  | 105,422  | 21,210   | 126,632 |
|        | 活動費  | 7,940    | 68,790   | 76,730  |
| 支給額（円） | R 4  | 133,683  | 97,468   | 231,151 |
|        | （内訳） |          |          |         |
|        | 交通費  | 107,058  | 22,743   | 129,801 |
|        | 活動費  | 26,625   | 74,725   | 101,350 |
| 支給額（円） | R 5  | 109,302  | 86,460   | 195,762 |
|        | （内訳） |          |          |         |
|        | 交通費  | 86,404   | 31,830   | 118,234 |
|        | 活動費  | 22,898   | 54,630   | 77,528  |
| 支給額（円） | R 6  | 182,911  | 12,219   | 195,130 |
|        | （内訳） |          |          |         |
|        | 交通費  | 139,131  | 8,919    | 148,050 |
|        | 活動費  | 43,780   | 3,300    | 47,080  |
| 支給額（円） | R 7  | 295,679  | 9,523    | 305,202 |
|        | （内訳） |          |          |         |
|        | 交通費  | 238,813  | 9,523    | 248,336 |
|        | 活動費  | 56,866   | 0        | 56,866  |

表 4 支給総額とその内訳

### (3) 推進組織体制



### (4) 実施日程

| 時 期                    | 内 容                                                                                     | 備 考                                                   |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 4 月中旬                  | ○事業実施内容の事前周知<br>【第 1 回指導主事会議、研修会】<br>対象：市町教育委員会、教育事務所、総合教育センター関係指導主事ほか                  | [参加者]<br>市町教育委員会（33名）<br>県教育委員会（16名）                  |
| 4 月 28 日               | ○選定結果受理                                                                                 |                                                       |
| 5 月 19 日               | ○事業実施内容の事前周知、成果の報告<br>【第 1 回各教科等児童生徒指導担当研修会】<br>対象：市町教育委員会、教育事務所、総合教育センター関係指導主事         |                                                       |
| 5 月 31 日               | ○委託契約                                                                                   |                                                       |
| 6 月 30 日               | ○事業実施の周知（通知）<br>対象：市町教育委員会（管内小・中学校及び義務教育学校）<br>・事業概要を掲載したリーフレットの作成<br>・事業について県公式 X にて周知 |                                                       |
| 7 月 17 日               | ○事業実施内容の周知<br>【不登校児童生徒に対する支援連絡協議会】<br>対象：教育支援センター、市町教育委員会、教育事務所、総合教育センター関係指導主事          | [参加者]<br>教育支援センター（18名）<br>市町教育委員会（17名）<br>県教育委員会（13名） |
| 6 月 30 日               | ○受給申請書の受付開始                                                                             |                                                       |
| 6 月 30 日<br>～ 1 月 31 日 | ○審査結果送付<br>○事前アンケートの送付及び回収                                                              |                                                       |

|                    |                                                                                                     |                                                                                              |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月 3 日            | ○事業概要を掲載したリーフレットの作成・送付                                                                              | [送付先]<br>市町教育委員会<br>電子データにて送付                                                                |
| 10月 7 日            | ○福祉部局との連携<br>【福祉や医療との連携体制構築に関する協議会】<br>対象：民間施設・団体職員、市町教育委員会関係指導主事、市町福祉部局担当職員、県教育委員会関係指導主事、県福祉部局担当職員 | [参加者]<br>民間施設・団体<br>(40団体40名)<br>市町教育委員会 (23名)<br>市町福祉部局 (12名)<br>県教育委員会 (12名)<br>県福祉部局 (3名) |
| 11月19日             | ○事業実施内容の周知<br>【学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会】<br>対象：教育支援センター職員、民間施設・団体職員、市町教育委員会・教育事務所・総合教育センター関係指導主事    | [参加者]<br>教育支援センター (12名)<br>民間施設・団体<br>(40団体40名)<br>市町教育委員会 (17名)<br>県教育委員会 (12名)             |
| 11月20日             | ○費用申請書の締切（前期分）                                                                                      |                                                                                              |
| 12月 3 日            | ○事業について県公式Xにて周知                                                                                     |                                                                                              |
| 1 月23日             | ○事業実施内容の周知、成果の報告<br>【不登校児童生徒支援事業「みかもふれあいキャンプ」担当者会議】<br>対象：当該施設職員、教育事務所、生涯学習課関係指導主事                  | [参加者]<br>県教育委員会 (12名)<br>施設職員 (2名)                                                           |
| 2 月10日             | ○費用申請書の締切（後期分）                                                                                      |                                                                                              |
| 2 月19日             | ○支給額の決定（前期分）                                                                                        |                                                                                              |
| 2 月13日             | ○事業実施内容の周知、成果の報告<br>【第2回各教科等児童生徒指導担当研修会】<br>対象：市町教育委員会、教育事務所指導主事                                    | [参加者]<br>市町教育委員会 (30名)<br>県教育委員会 (16名)                                                       |
| 3 月 4 日            | ○支給額の決定（後期分）                                                                                        |                                                                                              |
| 3 月27日             | ○当該児童生徒の保護者へ支援金の支払（前期分）                                                                             |                                                                                              |
| 2 月25日<br>～ 3 月17日 | ○事後アンケートの回収                                                                                         |                                                                                              |
| 3 月31日             | ○当該児童生徒の保護者へ支援金の支払（後期分）                                                                             |                                                                                              |

## （５）事業の成果

### ① アンケート調査の概要

#### 概要

当該児童生徒の生活習慣や通所意欲などの変容から、本事業による成果を捉えるため、申請者や当該児童生徒に対し、アンケート調査を実施する。

#### 調査実施時期と対象者

##### ・事前アンケート

実施期間：審査結果送付後 1 ヶ月以内

対 象 者：申請者 27 名、対象児童生徒 27 名

##### ・事後アンケート

実施期間：令和 8（2026）年 2 月 25 日～ 3 月 17 日

対 象 者：申請者 27 名、対象児童生徒 27 名、教育支援センター等担当者 12 名

## ② 申請者（保護者）対象アンケート

### ②-1 家庭の状況について

#### ○ 家族構成について（図1、図2）

事前：質問「同居のご家族を教えてください。」

「お子様の人数を教えてください。」

- ・ 申請者 27 名のうち、19 名がひとり親家庭からの申請であり、これまでの調査研究と同程度の7割を占めている。
- ・ 同居家族2人が7世帯、同居家族3人が9世帯であり、全体の約6割を占めている（図1）。
- ・ 満18歳未満の子供が3人以上いる世帯が6世帯であり、全体の約2割を占めている（図2）。

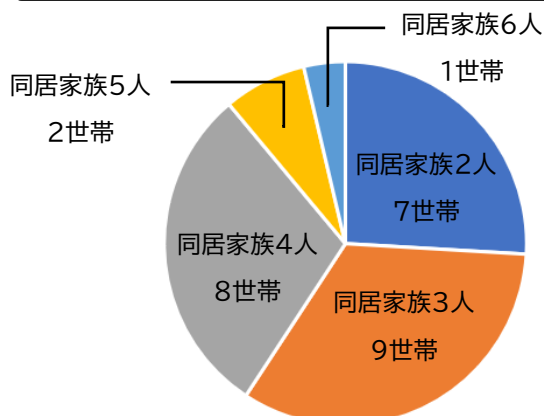


図1 同居家族の人数

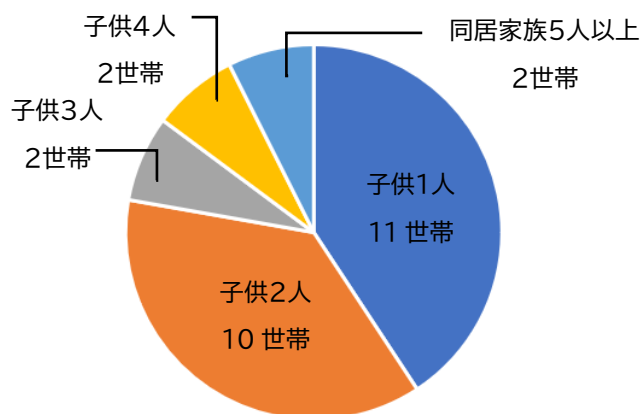


図2 満18歳未満の子供の数

#### ○ 教育に係る経費の負担感について（図3）

事前：質問「教育に係る経費として負担が大きいと感じているものはありますか。」

- ・ 新規申請者に対する事前アンケートにおいて、対象者 13 名のうち、9 名（全体の67%）が「教育に係る経費を負担が大きいと感じている」と回答している（図3）。

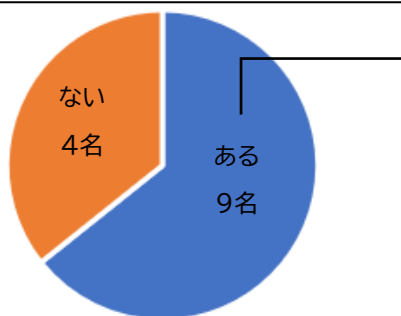


図3 教育に係る経費の負担感

（内容）

- ・ 交通費（4名）
- ・ 体験活動に係る実費（3名）
- ・ 教材費（5名）
- ・ フリースクール等の授業料や会費（4名）

※複数回答可

### ②-2 対象児童生徒の様子について

#### ○ 対象児童生徒の通所の実態について（図4、図5）

事前：質問「1週間当たり、どの程度教育支援センターやフリースクールなどの民間施設・団体等に通うことができますか。」

事後：質問「最近では、1週間当たりどの程度、教育支援センターやフリースクールなどの民間団体・施設に通っていますか。」

- ・ 事前アンケートにおいて、26 名の対象児童生徒は「通所している」と回答し、「通所できていない」対象児童生徒が1名いる。申請時「通所している」対象児童生徒のうち、「毎日」の通所は2名、「週3～4日」の通所は6名、「週1～2日」の通所は18名である（図4）。
- ・ 事後アンケートにおいて、22 名の対象児童生徒は「通所している」と回答し、「通所できていない」対象児童生徒が5名となった。「毎日」の通所は2名、「週3～4日」の通所は3名、「週1～2日」の通所は17名である（図5）。
- ・ また、事後アンケートにおいて、通う回数が変化した要因としては、「学校に登校するようになった」との回答があった。

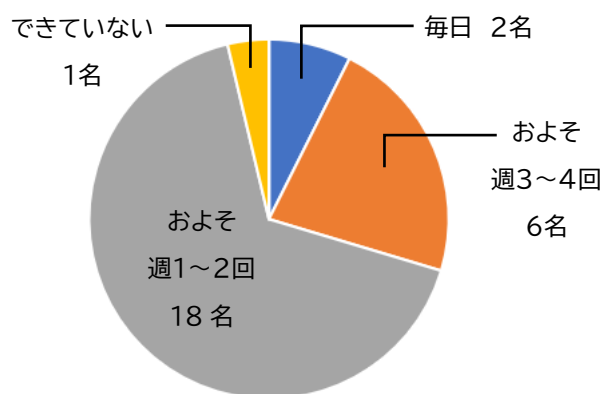


図4 経済支援前の通所日数の詳細

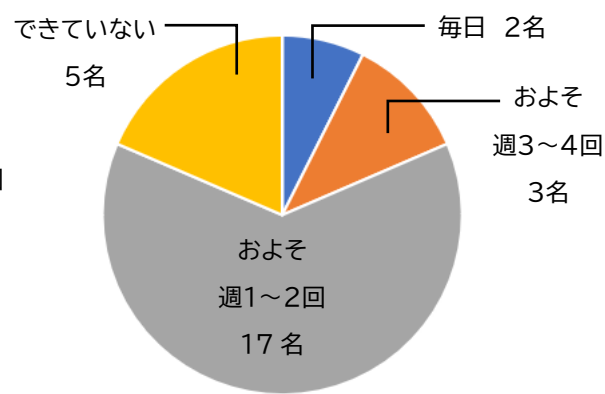


図5 経済支援後の通所日数の詳細

事後：質問「通う回数が増えた要因としてどのようなこと考えられますか。」

【「通所する回数が増えた」が回答した要因】

- ・ 先生や友達との関係が良くなった。
- ・ お昼から学校に行けるようになり、友達と遊ぶことで楽しい経験ができた。
- ・ 友達や先生に自分から声をかけることができるようになった。
- ・ 身体を動かすことが楽しいと感じるようになった。
- ・ 担当の先生と相談し、本人も前向きな気持ちを持つことができた。
- ・ 経済的支援により、費用を支援してもらえたため、通所できるようになった。
- ・ 学校に通えるようになった。
- ・ フリースクールに行く選択をしても良いことを知り、安心感が生まれた。
- ・ 本人は頑張ろうとしているが、経済面の問題で、交通費にまで回せなかった。
- ・ 本人の気持ちが不安定だった。

○ 対象児童生徒の生活習慣について（図6から図9）

事前：質問「毎日同じくらいの時間に起きていますか。」

事後：質問「平日の起床時刻に変化はありましたか。」

- ・ 事前アンケートにおいて、「毎日同じくらいの時間に起きている」「毎日同じくらいの時間に寝ている」と回答した保護者の割合は、どちらも7割程度である。
- ・ 事後アンケートにおいて、「起床時刻が早くなった」と回答した保護者は11名（全体の41%）で、「遅くなった」と回答した保護者は3名（全体の11%）である（図6、図7）。
- ・ また、「就寝時刻が早くなった」と回答した保護者は5名（全体の19%）で、「遅くなった」と回答した保護者は3名（全体の11%）である（図8、図9）。
- ・ 経年変化として見ると、決まった時刻の起床、就寝については例年通りの傾向が見られる。

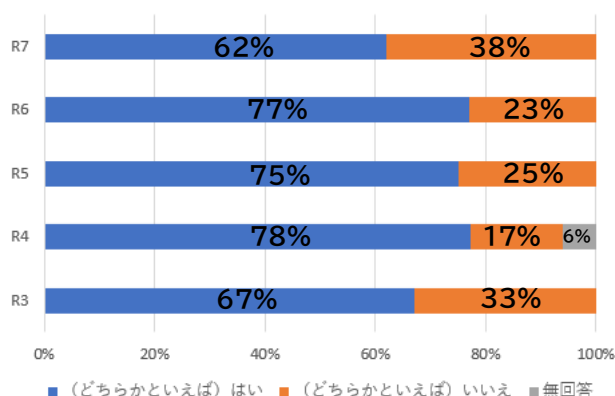


図6 【経年変化】決まった時刻の起床

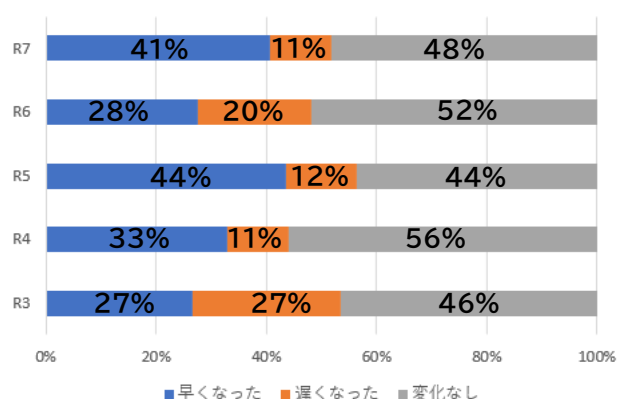


図7 【経年変化】起床時刻の変化

事前：質問「毎日同じくらいの時間に寝ていますか。」  
 事後：質問「平日の就寝時刻に変化はありましたか。」

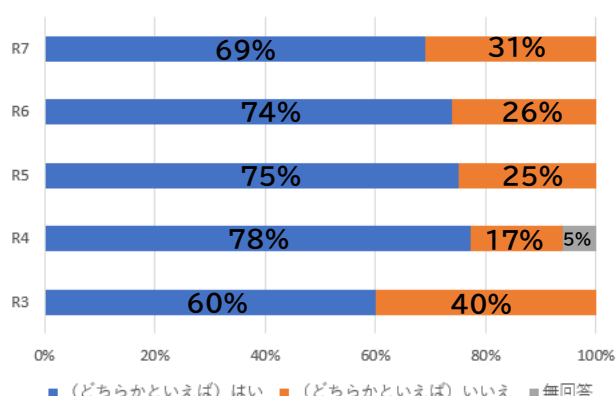


図8 【経年変化】決まった時刻の就寝

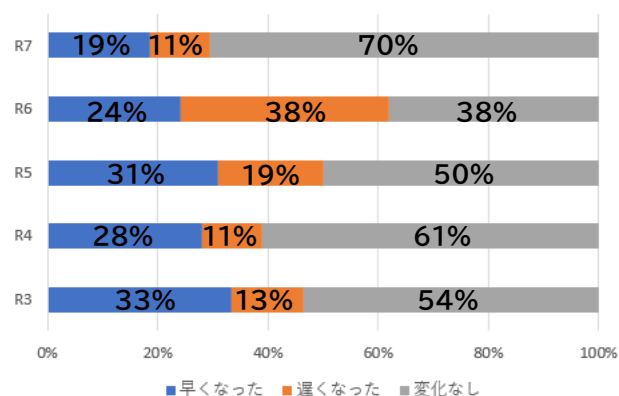


図9 【経年変化】就寝時刻の変化

### ○ 対象児童生徒の学習時間について（図10、図11）

事前：質問「1日当たり、家庭学習はどの程度行っていますか。」  
 事後：質問「申請前と比べて家庭での学習時間に変化はありましたか。」

- ・ 申請時において、学習を行っていると回答した保護者は14名で全体の5割程度である（図10）。
- ・ 事後アンケートにおいて、学習時間が「増えた」と回答した保護者は5名（全体の19%）、「減った」と回答した保護者は3名（全体の11%）、「変化がない」と答えた保護者が19名（全体の70%）である（図11）。
- ・ 経年変化として見ると、学習を「行っていない」と回答した保護者の割合は48%で、令和6年度と同様、5年間で最も割合が高い。

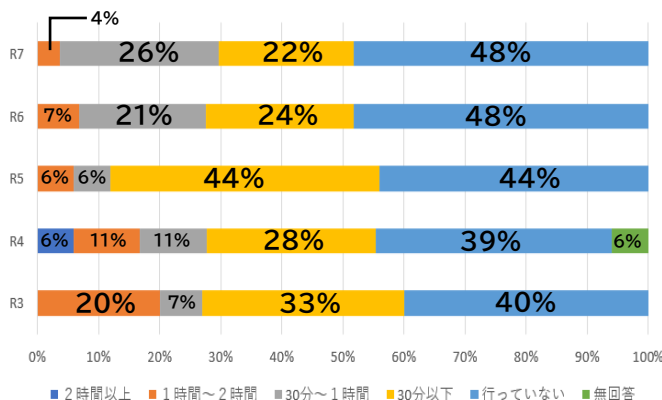


図10 【経年変化】学習時間

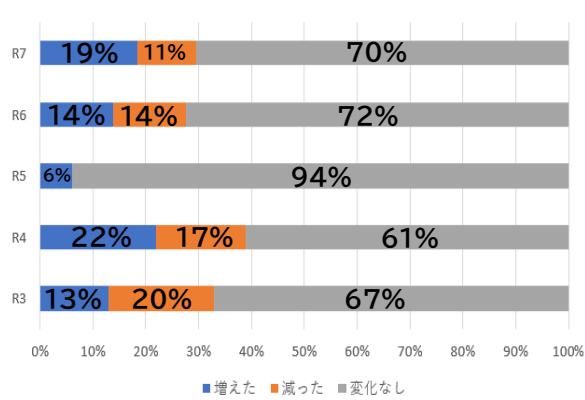


図11 【経年変化】学習時間の変化

### ○ 対象児童生徒の変化について（図12、図13）

事後：質問「申請前と比べて、お子様の表情や生活の様子に変化はありましたか。」  
 「お子様の変化で当てはまるものを選んでください。（複数回答可）」

- ・ 事後アンケートにおいて、対象児童生徒の変化があったと回答した保護者は15名（全体の69%）である（図12）。
- ・ 具体的な変化については、対象児童生徒が「明るくなった」と回答した保護者が12名である。また、「笑顔が増えた」と回答した保護者が10名である。さらに、「活発になった」、「健康的になった」と回答した保護者が7名、「落ち着いた」と回答した保護者6名いる。（図13）。
- ・ 経年変化として見ると、対象児童生徒が「明るくなった」、「笑顔が増えた」と回答した保護者が昨年度と同様、回答数が多い。

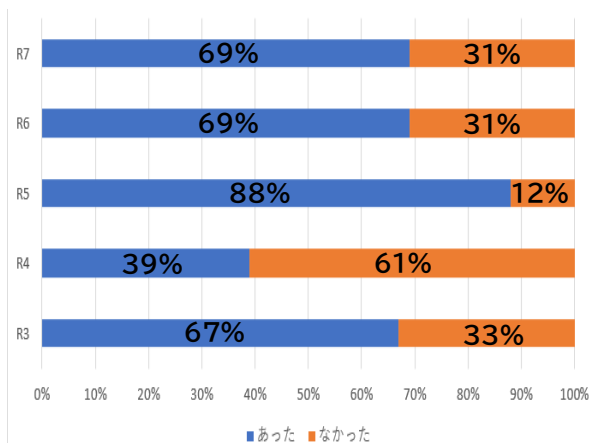


図 12 【経年変化】対象児童生徒の変化

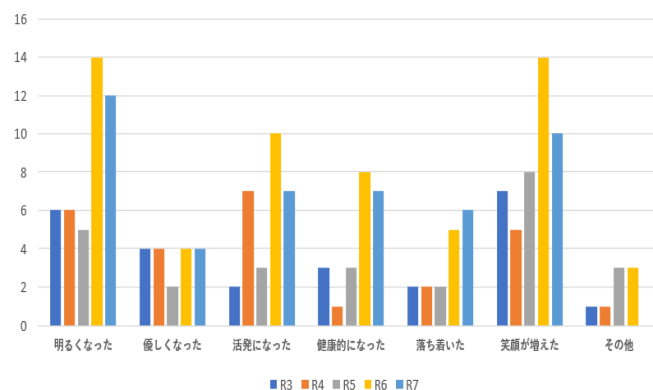


図 13 【経年変化】児童生徒の変化したこと

## ②-3 申請者（保護者）の様子について

### ○ 対象児童生徒との親子関係の変化について（図 14、図 15）

事後：質問「申請前と比べて、お子様との関係に変化がありましたか。」

「どのような変化がありましたか。（複数回答可）」

- 事後アンケートにおいて、対象児童生徒との関係に「変化があった」と回答した保護者は 13 名（全体の 62%）で、昨年度同様に割合が高い（図 14）。
- 具体的な変化については、「会話をする機会が増えた」、「褒めることが増えた」と回答した保護者が 9 名、「一緒に過ごす時間が増えた」と回答した保護者が 5 名、「会話をする機会が減った」、「一緒に過ごす時間が減った」、「褒めることが減った」と回答した保護者が 1 名であった。「その他」としては、「学校に行きなさいと言わなくなり、お互いに落ち着いている」との回答があった（図 15）。
- 経年変化として見ると、対象児童生徒との関係の変化が「あった」と回答した保護者は、この 3 年間に於いて 6 割程度で推移している。

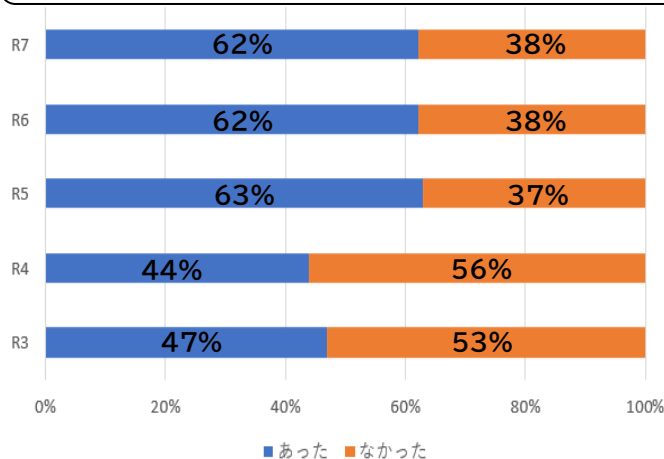


図 14 【経年変化】対象児童生徒との関係の変化

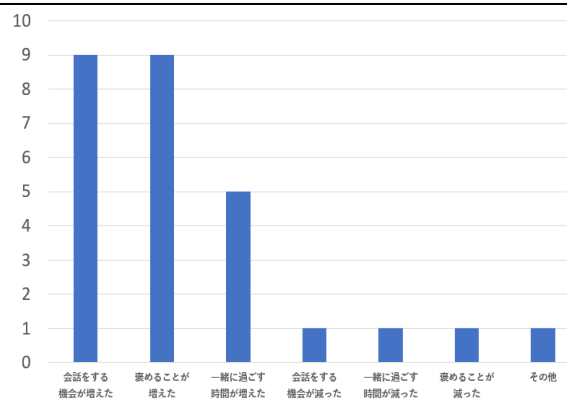


図 15 具体的な変化

### ○ 所属校との関係の変化について（図 16）

事後：質問「申請する前と比べて、お子様が所属する学校（教育支援センターやフリースクール等の民間団体を含む）との関係に変化がありましたか。」

質問「どのような変化がありましたか。（複数回答可）」

- 事後アンケートにおいて、学校との関係に「変化があった」と回答した保護者は 15 名（全体の 56%）である（図 16）。
- 具体的な変化については、「子供のことについて話す機会が増えた」と回答した保護者が 11 名、「学校に足を向けるようになった」と回答した保護者が 6 名、「学校の職員が子供のことを気にかけてくれるように」と回答した保護者が 5 名、「面談の回数が増えた」、「子供のことについて、学校の職員と話す機会が減った」、「面談の回数が減った」と回答した保護者が 2 名である。
- 経年変化として見ると、所属校との関係の変化が「あった」と回答した保護者は 56% で、昨年度同様半数を上回っており、同様の傾向が見られる。

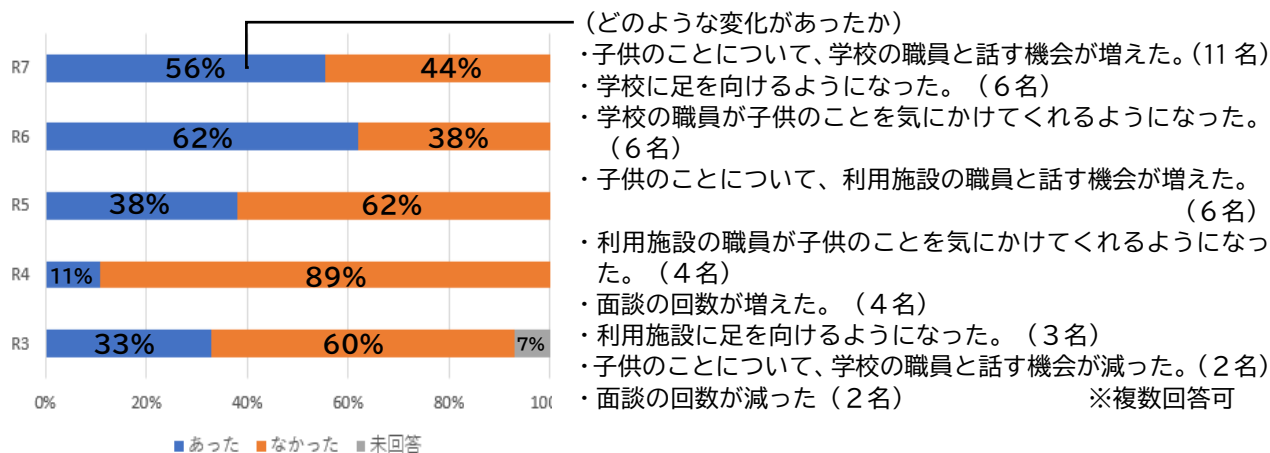


図 16 【経年変化】所属校との関係の変化

### ○ 保護者の気持ちの余裕について (図 17、図 18)

事後：質問「申請する前と比べて、気持ちの余裕は生まれましたか。」

質問「気持ちの余裕が生まれたことにより、仕事や生活の様子に変化はありましたか。」

- ・ 事後アンケートにおいて、「気持ちの余裕が生まれた」と回答した保護者は 19 名（全体の 70 %）である（図 17）。
- ・ 「気持ちの余裕が生まれた」と回答した保護者 19 名のうち、「仕事や生活の様子に変化があった。」と回答した保護者は 10 名（53%）である（図 18）。
- ・ 具体的な変化については、気持ちの安定や仕事への就労、親子関係の好転など、気持ちの余裕が生まれたことによる効果とみられる回答があった。

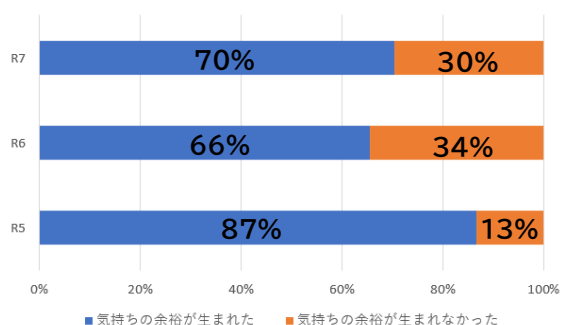


図 17 保護者の気持ちの余裕

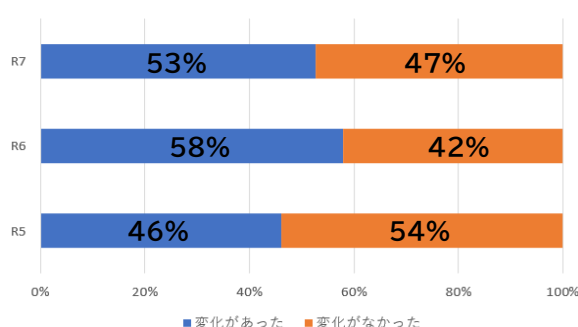


図 18 仕事や生活の変化

事後：質問「仕事や生活の様子について、どのように変化したか御記入ください。」

#### 【保護者の変化】

- ・ 子供が学校へ通えない不安が緩和され、安心感が増した。
- ・ 少しでも助けてくれる場所があるだけで、親は安心する。親の精神の安定が何よりだと思うので、ありがたい。
- ・ 気持ちが落ち着いた。
- ・ 仕事がフルタイムになった。
- ・ 仕事を楽しめるようになった。
- ・ 子供がフリースクールへ行く回数が増え、自分自身も仕事への意欲が増した。
- ・ 働ける時間が増え、子供との良い距離感ができ、子供も心に余裕ができたように感じる。
- ・ 子供と少しでも離れる時間が作れた。
- ・ 自分自身の体調が少し良くなったと感じる。

#### 【児童生徒の変化】

- ・ 本人が家の手伝いをしてくれた。

## ②-4 保護者の事業の認知について

### ○ 事業の認知方法について（図 19）

事後：質問 「今年度の本事業の実施をどこで知りましたか。」

・「学校からの実施要項の配布」が4割強であり、「学校からのリーフレットの配布」を含めると、学校からの連絡による認知が6割程度である（図 19）。

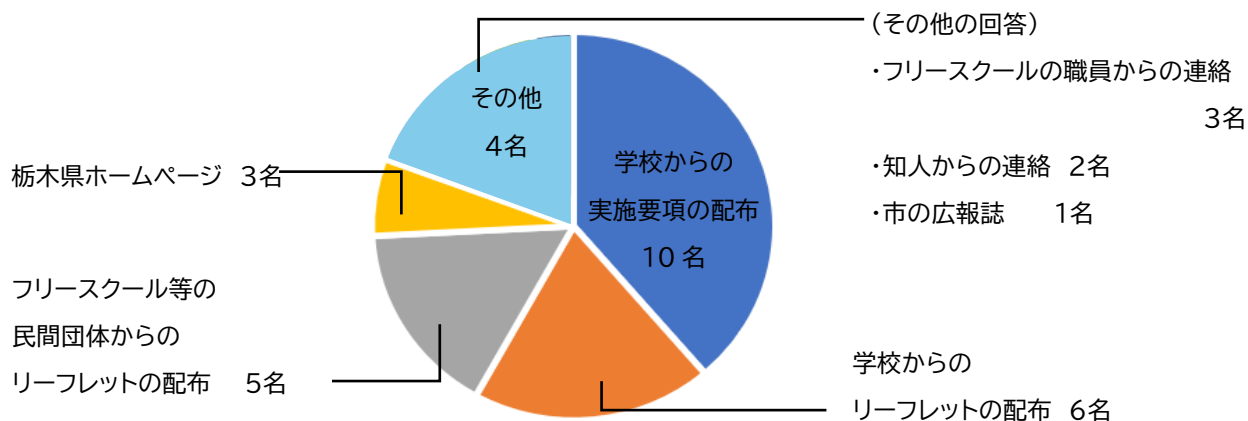


図 19 事業の認知

## ②-5 申請者（保護者）対象アンケートの考察

### 1) 申請者（保護者）と対象児童生徒との関係について

②-1により、新規申請者の6割の申請者が教育に係る経費を負担と感じており、負担と感じている経費の内訳については、交通費や体験活動にかかる実費、教材費が多い結果となった。

②-3により、対象児童生徒が教育支援センター等に通所することで「会話をする機会が増えた」、「褒めることが増えた」、「一緒に過ごす時間が増えた」など保護者と対象児童生徒の関係が変化したと、多くの申請者が回答している。また、所属する学校との関係の変化を感じている保護者も一定数いることから、通所を通して、「子供のことについて話す機会が増えた。」などの変化が見られた保護者が増え、教育支援センター等や所属校とも情報交換を行いながら、児童生徒の成長を支えることにつながっていると考えられる。

このことから、本事業を通して、申請者に対して児童生徒の通所のための交通費や体験活動費の支援を行うことは、申請者と対象児童生徒との関係に対して一定程度効果があるといえる。また、保護者の気持ちの余裕についての調査では、「気持ちの余裕が生まれた」と回答した保護者の多くから、気持ちの安定や仕事への就労、親子関係の好転にもつながっているとの具体的な回答がみられた。本事業による交通費や体験活動費の継続的な支援により、保護者が就労する時間が増え、経済的な余裕が生まれていること、さらに、対象児童生徒の様子の変化にもつながっていることがいえる。

### 2) 対象児童生徒の生活について

②-2によると、対象児童生徒の生活習慣については、起床時刻や就寝時刻が毎日同じくらいであるという対象児童生徒が7割以上である。また、本事業の支援を受けて、「起床時刻が早くなった」や「就寝時刻が早くなった」という対象児童生徒が一定数おり、通所による生活習慣の改善が見られる対象児童生徒がいることが考えられる。

一方、学習時間について経年変化を見ると、学習を「行っていない」と回答した保護者の割合は48%であり、令和6年度と同様、5年間で最も高い割合となっている。このことから、学習面においては依然として課題が残る状況であることがうかがえる。

### 3) 周知の方法について

事業の周知の仕方については、年度初めの指導主事会議、研修会をはじめ、福祉部局との連携を図るための会議においても、事業実施内容の事前周知を行うとともに、事業内容をまとめたリーフレットを作成、配布した。②-4によると、学校からの連絡による事業の認知が6割を占めていることがわかる。また、知人や県公式Xでの周知については、その効果が十分に見られていないが、当該保護者からの問い合わせもあることから、今後も様々な方法で周知を図っていく必要がある。

### ③ 児童生徒対象アンケート

#### ③-1 人間関係形成に関することについて

##### ○ 人と話すことについて (図 20)

事前・事後：質問「人と話すことは楽しいですか。」

##### ○ 自分の思っていることや感じていることの言語化 (図 21)

事前・事後：質問「自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができますか。」

##### ○ 家族との関係について (図 22 から図 24)

事前・事後：質問「家の人と、一日のできごとについて話をしていますか。」

事前・事後：質問「家の人と、自分の好きなことや興味のあることについて話をしていますか。」

事前・事後：質問「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれますか。」

- ・ 事前アンケート、事後アンケートともに、8 割以上の対象児童生徒が肯定的回答をしている (図 20)。
- ・ 事前アンケートと事後アンケートを比較すると、事後アンケートでは「肯定的回答 (「はい」、「どちらかといえば、はい」) をした児童生徒はやや増加している (図 21)。
- ・ 家の人と話す機会について、肯定的回答が増加しており、事後アンケートでは 8 割弱の生徒が肯定的回答をしている。「好きなことや興味のあることについて話をしている」ことについては、肯定的回答 (「はい」、「どちらかといえば、はい」) と否定的回答 (「いいえ」、「どちらかといえば、いいえ」) の割合に大きな変化は見られないが、事前事後ともに 7 割を超えている。(図 22、図 23)。
- ・ 家の人がほめてくれる機会について、事後アンケートでは「肯定的回答 (「はい」、「どちらかといえば、はい」) をした児童生徒はやや増加している (図 24)。

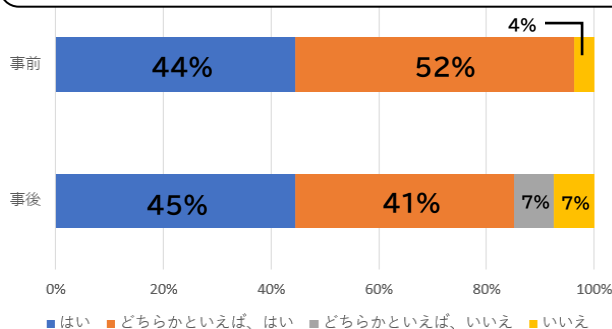


図 20 人と話すことについて

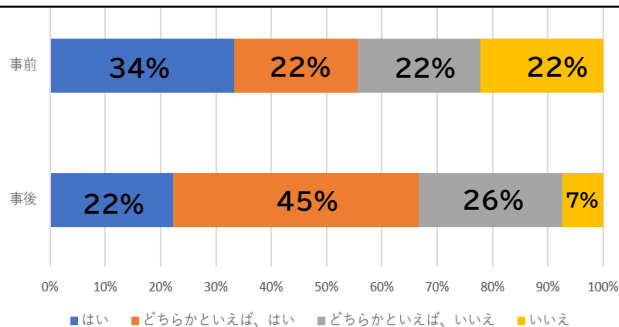


図 21 自分の思いの言語化

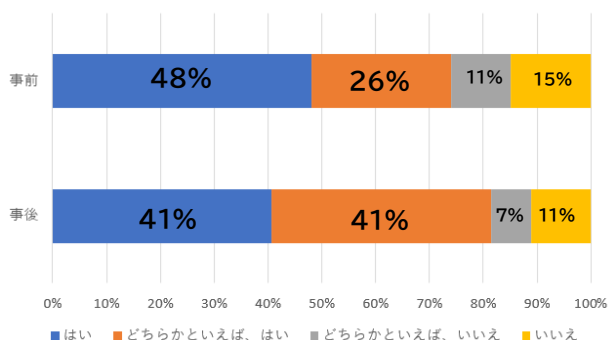


図 22 家の人と話をする機会  
(一日のできごと)

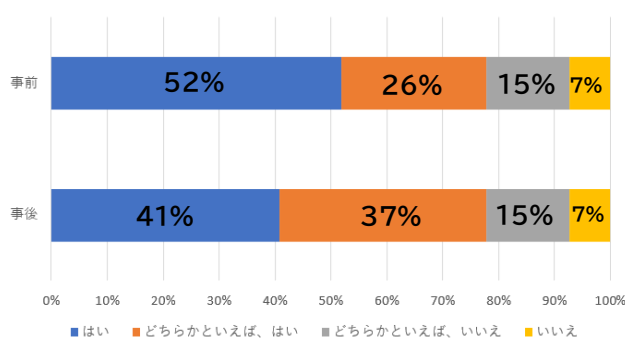


図 23 家の人と話をする機会  
(自分の好きなことや興味)

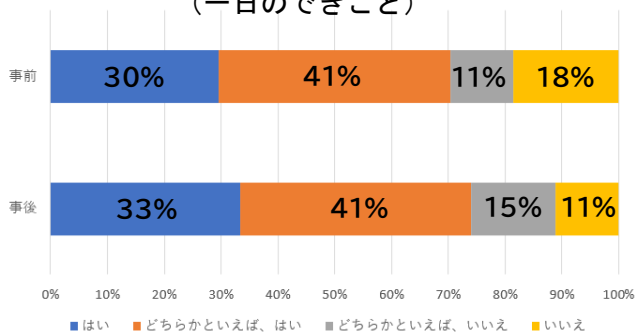


図 24 家の人がほめてくれる機会

### ③-2 自己実現に関することについて

#### ○ 自己肯定感に関することについて（図 25 から図 27）

事前・事後：質問「自分には良いところがあると思いますか。」

事後：質問「（「はい」「どちらかといえば、はい」と答えた児童生徒に対して）この1年間で、自分の良さについて新たな気付きがありましたか。」

事後：質問「（「はい」「どちらかといえば、はい」と答えた児童生徒に対して）どのような経験を通して、新たな気付きがありましたか。」

事前・事後：質問「自分の良さを人のために生かしたいと思いますか。」

- ・ 事前アンケートにおいては、約8割の児童生徒が肯定的回答をしている。事後アンケートにおいては、「はい」と回答した児童生徒がやや増加している（図 25）。
- ・ 事後アンケートで肯定的回答をした児童生徒 16 名のうち、6割の児童生徒が「新しい自分の良さに気付いた」と回答している。新たな気付きがあった経験については、「通っている教室やフリースクールの先生とのかかわりが増えたこと」と回答した児童生徒が7名、「友だちとのかかわりが増えたこと」と回答した児童生徒が6名、「勉強をしたこと」と回答した児童生徒が5名、「運動をしたこと」と回答した児童生徒が4名、「体験活動に参加したこと」と回答した児童生徒が3名である（図 26）。
- ・ 事後アンケートにおける「自分の良さを人のために生かしたい」ことについて、7割の児童生徒が肯定的回答をしている（図 27）。

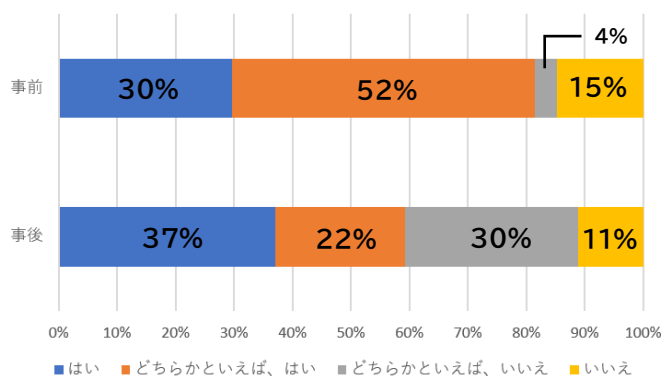


図 25 自分には良いところがあるか

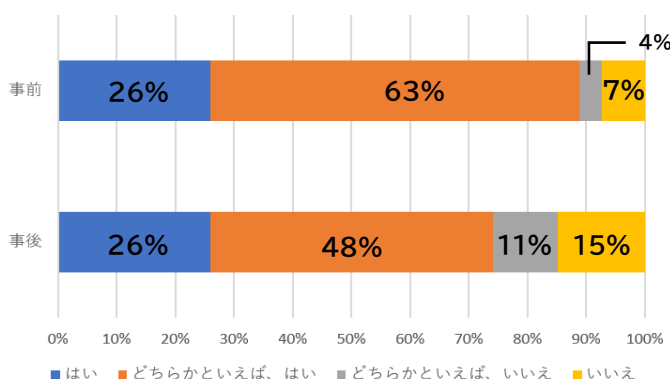
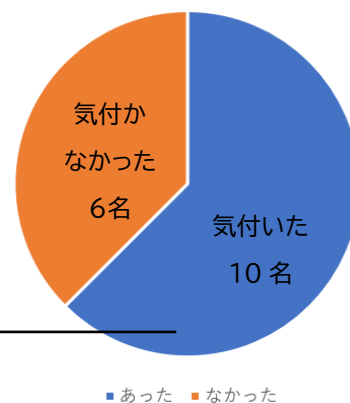


図 27 自分の良さを人のために生かしたいか



（新たな気付きがあった経験）

- ・ 通っている教室やフリースクールの先生とのかかわりが増えたこと（7名）
- ・ 友だちとのかかわりが増えたこと（6名）
- ・ 勉強をしたこと（5名）
- ・ 運動をしたこと（4名）
- ・ 体験活動に参加したこと（3名）

※複数回答可

図 26 新しい自分の良さに気付いたか

#### ○ 将来の夢や目標について（図 28、図 29）

事前・事後：質問「家の人と将来のことについて話すことがありますか。」

事前・事後：質問「将来の夢や目標をもっていますか。」

- ・ 事前アンケートにおいては、約8割の児童生徒が肯定的回答をしている。事後アンケートにおいては、肯定的回答をした児童生徒がやや増加している（図 28）。
- ・ 事前アンケートと事後アンケートを比較すると、事後アンケートでは「肯定的回答（「はい」「どちらかといえば、はい」）をした児童生徒は2割程度増加している（図 29）。

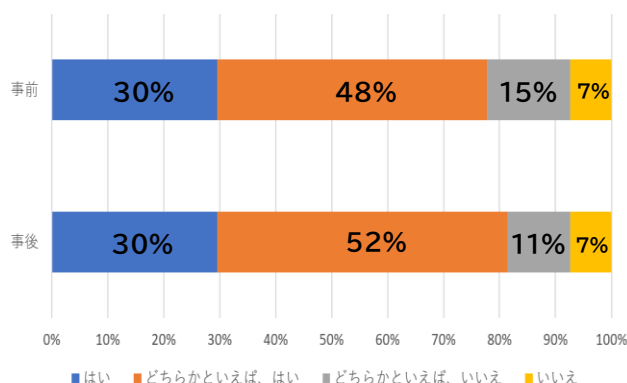


図 28 将来のことについて話す機会

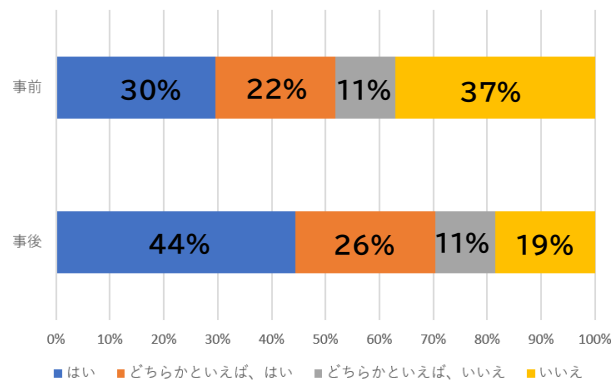


図 29 将来の夢について

### ○ 今後の挑戦、意欲に関することについて（図 30、図 31）

事後：質問「今後、あなたがやってみたいこと、挑戦してみたいことはありますか。（「はい」と答えた児童生徒に対して）それは、どんなことですか。」

- ・ 事前アンケートと事後アンケートを比較すると、事後アンケートでは 16 名（59%）の児童生徒が肯定的回答をし、2 割程度増加している（図 30）。
- ・ 具体的にやってみたいこと、挑戦してみたいことについては、「勉強すること」と回答した児童生徒が 7 名、「運動すること」と回答した児童生徒が 7 名、「家の手伝いをする」と回答した児童生徒が 6 名、「地域の活動に参加すること」と回答した児童生徒が 2 名である（図 31）。

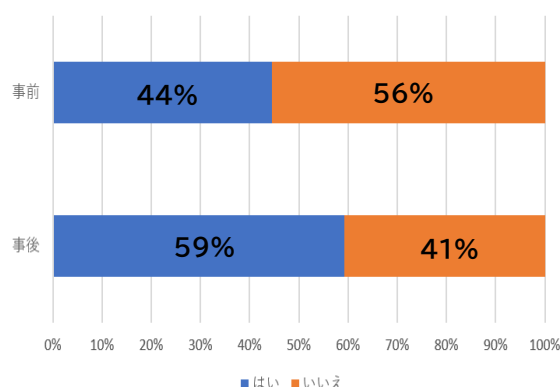


図 30 今後の挑戦、意欲について

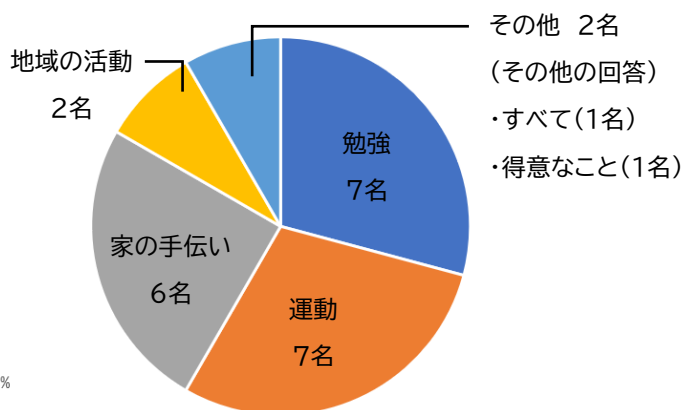


図 31 今後、挑戦したいこと

### ③ー3 児童生徒対象アンケートの考察

#### 1) 人間関係形成に関することについて

③ー1によると、「人間関係形成」に関する項目については、肯定的に回答する割合が高い。また、「家族との関係について」も肯定的に回答する割合が高く、「家の人が、ほめてもらいたいことをほめてくれる」と回答した対象児童生徒は7割を超えている。通所をすることで家の人や職員とのコミュニケーションが増え、対象児童生徒の人間関係形成に寄与していることがうかがえる。

#### 2) 自己実現に関することについて

③ー2によると、「自分には良いところがある」の肯定的回答の割合は6割程度であり、事後アンケートにおいて、「はい」と回答した対象児童生徒が増加している。新たな気づきがあった経験については、「人間関係形成」に関する経験に次いで、「勉強したこと」が回答されている。また、「自分の良さを人のために生かしたい」について、事後アンケートにおける肯定的に回答している児童生徒が7割程度である。通所を通して、自分の長所を生かす機会が増えていると考えられる。

また、「家の人と将来のことについて話す機会」については、事前アンケートと事後アンケート

ートを比較すると、肯定的に回答した対象児童生徒の割合は増加した。「将来の夢や目標」については、事後アンケートにおいて、2割増加し7割程度の児童生徒が肯定的な回答をしている。「今後の挑戦、意欲に関すること」については、事後アンケートにおいて6割の児童生徒が肯定的に回答している。具体的にやってみたいこと、挑戦してみたいこととして、多くの児童生徒が「勉強すること」や「運動すること」と回答していた。体験活動等を通して、自分の良さに新たな気付きがあり、将来のことを見据え、多様な視点を持ち、気持ちの安定や挑戦することへの意欲につながっていると考えられる。

#### ④ 保護者と児童生徒の調査結果のクロス集計（事後アンケート回答者 27 名を対象）

##### ④-1 クロス集計分析における調査項目（表5から表13）

##### ○ 保護者と児童生徒の人間関係形成に関することについて

事後：質問「家の人と一緒に過ごす時間は増えましたか。」

事後：質問「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれますか。」

事後：質問「家の人と、将来のことについて話すことがありますか。」

##### ○ 児童生徒の自己実現に関することについて

事後：質問「将来の夢や目標をもっていますか。」

事後：質問「自分には良いところがあると思いますか。」

事後：質問「自分の良さを人のために生かしたいと思いますか。」

事後：質問「今後、あなたがやってみたいこと、挑戦してみたいことはありますか。」

- ・「家の人と、一緒に過ごす時間が増えたか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれるか」に肯定的回答をしているのは15名（全体の55%）である（表5）。
- ・「家の人と、一緒に過ごす時間が増えたか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「家の人と将来のことについて話すことがあるか」に肯定的回答をしているのは16名（全体の59%）である（表6）。
- ・「家の人はほめてもらいたいことをほめてくれるか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「自分には良いところがあるか」に肯定的回答をしているのは13名（全体の48%）である（表7）。
- ・「家の人はほめてもらいたいことをほめてくれる」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「自分の良さを人のために生かしたい」に肯定的回答をしているのは15名（全体の55%）である（表8）。
- ・「将来の夢や目標をもっているか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「自分には良いところがあるか」に肯定的回答をしているのは11名（全体の41%）である（表9）。
- ・「自分には良いところがあるか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「自分の良さを人のために生かしたいか」に肯定的回答をしている対象児童生徒は13名（全体の48%）である（表10）。
- ・「家の人と将来のことについて話すことがあるか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「今後、あなたがやってみたいこと、挑戦してみたいことがある」に肯定的回答をしている対象児童生徒は13名（全体の48%）である（表11）。
- ・「将来の夢や目標をもっているか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「今後、あなたがやってみたいこと、挑戦してみたいことがある」に肯定的回答をしている対象児童生徒は12名（全体の44%）である（表12）。
- ・「自分には良いところがあるか」に肯定的回答をしている対象児童生徒のうち、「今後、あなたがやってみたいこと、挑戦してみたいことがある」に肯定的回答をしている対象児童生徒は10名（全体の37%）である（表13）。

|                                                       |                 | 家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれますか。 |             |              |     | 計  |
|-------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------|-------------|--------------|-----|----|
|                                                       |                 | はい                            | どちらかといえば、はい | どちらかといえば、いいえ | いいえ |    |
| 家の<br>人<br>と、<br>一<br>緒<br>に<br>過<br>ご<br>す<br>時<br>間 | はい              | 7                             | 1           | 1            | 1   | 10 |
|                                                       | どちらかとい<br>え、はい  | 1                             | 6           | 1            | 1   | 9  |
|                                                       | どちらかとい<br>え、いいえ | 0                             | 2           | 1            | 2   | 5  |
|                                                       | いいえ             | 0                             | 2           | 0            | 1   | 3  |
|                                                       | 計               | 8                             | 11          | 3            | 5   | 27 |

表5 「家族と過ごす時間は増えたか」と「ほめてもらいたいことをほめてくれるか」のクロス集計

|                                                                                           |              | 家の人と将来のことについて話すことができますか。 |             |              |     |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------|-------------|--------------|-----|----|
|                                                                                           |              | はい                       | どちらかといえば、はい | どちらかといえば、いいえ | いいえ | 計  |
| 家の<br>人<br>と、<br>一<br>緒<br>に<br>過<br>ご<br>す<br>時<br>間<br>は<br>増<br>え<br>ま<br>し<br>た<br>か。 | はい           | 5                        | 2           | 2            | 1   | 10 |
|                                                                                           | どちらかといえば、はい  | 0                        | 9           | 0            | 0   | 9  |
|                                                                                           | どちらかといえば、いいえ | 2                        | 3           | 0            | 0   | 5  |
|                                                                                           | いいえ          | 1                        | 0           | 1            | 1   | 3  |
|                                                                                           | 計            | 8                        | 14          | 3            | 2   | 27 |

表6 「家族と過ごす時間は増えたか」と「将来のことについて話すことができるか」のクロス集計

|                                                                               |              | 自分には良いところがあると思いますか。 |             |              |     |    |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------|-------------|--------------|-----|----|
|                                                                               |              | はい                  | どちらかといえば、はい | どちらかといえば、いいえ | いいえ | 計  |
| も<br>ら<br>い<br>た<br>い<br>こ<br>と<br>を<br>ほ<br>め<br>て<br>く<br>れ<br>ま<br>す<br>か。 | はい           | 4                   | 1           | 2            | 1   | 8  |
|                                                                               | どちらかといえば、はい  | 5                   | 3           | 2            | 1   | 11 |
|                                                                               | どちらかといえば、いいえ | 0                   | 0           | 2            | 1   | 3  |
|                                                                               | いいえ          | 1                   | 2           | 2            | 0   | 5  |
|                                                                               | 計            | 10                  | 6           | 8            | 3   | 27 |

表7 「ほめてもらいたいことをほめてくれるか」と「自分には良いところがあるか」のクロス集計

|                                                                                         |              | 自分の良さを人のために生かしたいと思いますか。 |             |              |     |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------------------|-------------|--------------|-----|----|
|                                                                                         |              | はい                      | どちらかといえば、はい | どちらかといえば、いいえ | いいえ | 計  |
| ら<br>家<br>の<br>人<br>は<br>、<br>あ<br>な<br>た<br>が<br>ほ<br>め<br>て<br>く<br>れ<br>ま<br>す<br>か。 | はい           | 2                       | 2           | 3            | 1   | 8  |
|                                                                                         | どちらかといえば、はい  | 4                       | 7           | 0            | 0   | 11 |
|                                                                                         | どちらかといえば、いいえ | 1                       | 1           | 0            | 1   | 3  |
|                                                                                         | いいえ          | 0                       | 3           | 0            | 2   | 5  |
|                                                                                         | 計            | 7                       | 13          | 3            | 4   | 27 |

表8 「ほめてもらいたいことをほめてくれるか」と「自分の良さを生かしたいか」のクロス集計

|                                                                          |              | 自分には良いところがあると思いますか。 |             |              |     |    |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------|-------------|--------------|-----|----|
|                                                                          |              | はい                  | どちらかといえば、はい | どちらかといえば、いいえ | いいえ | 計  |
| も<br>将<br>来<br>の<br>夢<br>や<br>目<br>標<br>を<br>も<br>っ<br>て<br>い<br>る<br>か。 | はい           | 7                   | 1           | 4            | 0   | 12 |
|                                                                          | どちらかといえば、はい  | 0                   | 3           | 4            | 0   | 7  |
|                                                                          | どちらかといえば、いいえ | 3                   | 0           | 0            | 0   | 3  |
|                                                                          | いいえ          | 0                   | 2           | 0            | 3   | 5  |
|                                                                          | 計            | 10                  | 6           | 8            | 3   | 27 |

表9 「将来の夢や目標をもっているか」と「自分には良いところがあるか」のクロス集計

|                     |              | 自分の良さを人のために生かしたいと思いますか。 |             |              |     |    |
|---------------------|--------------|-------------------------|-------------|--------------|-----|----|
|                     |              | はい                      | どちらかといえば、はい | どちらかといえば、いいえ | いいえ | 計  |
| 自分には良いところがあると思いますか。 | はい           | 6                       | 4           | 0            | 0   | 10 |
|                     | どちらかといえば、はい  | 0                       | 3           | 1            | 2   | 6  |
|                     | どちらかといえば、いいえ | 1                       | 5           | 2            | 0   | 8  |
|                     | いいえ          | 0                       | 1           | 0            | 2   | 3  |
|                     | 計            | 7                       | 13          | 3            | 4   | 27 |

表 10 「自分には良いところがあるか」と「自分の良さを生かしたいか」のクロス集計

|                     |              | 今後、あなたがやりたいこと、挑戦してみたいことはありますか。 |     |    |
|---------------------|--------------|--------------------------------|-----|----|
|                     |              | はい                             | いいえ | 計  |
| 家の人と将来のことにについて話すこと。 | はい           | 5                              | 3   | 8  |
|                     | どちらかといえば、はい  | 8                              | 6   | 14 |
|                     | どちらかといえば、いいえ | 2                              | 1   | 3  |
|                     | いいえ          | 1                              | 1   | 2  |
|                     | 計            | 16                             | 11  | 27 |

肯定的回答をした 13 名が回答した

今後やりたいこと、挑戦したいこと(複数回答可)

- ・勉強すること(7名)
- ・運動すること(4名)
- ・家の手伝いをする(4名)
- ・地域の活動に参加すること(1名)

表 11 「将来のことについて話すことがあるか」と「今後、やりたいこと、挑戦してみたいことはあるか」のクロス集計

|                 |              | 今後、あなたがやりたいこと、挑戦してみたいことはありますか。 |     |    |
|-----------------|--------------|--------------------------------|-----|----|
|                 |              | はい                             | いいえ | 計  |
| 将来の夢や目標をもっているか。 | はい           | 10                             | 2   | 12 |
|                 | どちらかといえば、はい  | 2                              | 5   | 7  |
|                 | どちらかといえば、いいえ | 3                              | 0   | 3  |
|                 | いいえ          | 1                              | 4   | 5  |
|                 | 計            | 16                             | 11  | 27 |

肯定的回答をした 12 名が回答した

今後やりたいこと、挑戦したいこと(複数回答可)

- ・勉強すること(6名)
- ・運動すること(6名)
- ・家の手伝いをする(4名)
- ・地域の活動に参加すること(2名)

表 12 「将来の夢や目標をもっているか」と「今後、やりたいこと、挑戦してみたいことはあるか」のクロス集計

|                |              | 今後、あなたがやりたいこと、挑戦してみたいことはありますか。 |     |    |
|----------------|--------------|--------------------------------|-----|----|
|                |              | はい                             | いいえ | 計  |
| 自分には良いところがあるか。 | はい           | 9                              | 1   | 10 |
|                | どちらかといえば、はい  | 1                              | 5   | 6  |
|                | どちらかといえば、いいえ | 5                              | 3   | 8  |
|                | いいえ          | 1                              | 2   | 3  |
|                | 計            | 16                             | 11  | 27 |

肯定的回答をした 10 名が回答した

今後やりたいこと、挑戦したいこと(複数回答可)

・勉強すること(5名)

・運動すること(2名)

・家の手伝いをすること(4名)

・地域の活動に参加すること(1名)

表 13 「自分には良いところがあるか」と「今後、やりたいこと、挑戦してみたいことはあるか」のクロス集計

#### ④-2 保護者と児童生徒の調査結果のクロス集計の考察

##### 1) 保護者と児童生徒の人間関係形成に関することについて

クロス集計の結果から、「家の人と一緒に過ごす時間が増える」ことで、会話をする機会が増え、ほめてもらいたいことをほめてもらったり、将来のことについて話をしたりするなど、児童生徒にとって認められる機会が増えることが考えられる。また、「将来のことについて話をする」機会があると、「今後やりたいこと、挑戦してみたいこと」として、勉強することを多く回答する傾向がある。家族からの賞賛や励まし等により、自分のよさに気づき、将来の夢や希望もつことにつながり、学習意欲の向上につながる傾向が見られる。

##### 2) 児童生徒の自己実現に関することについて

クロス集計の結果から、「将来の夢や目標をもっている」児童生徒は、「自分にはよいところがある」と回答する傾向があると見られる。将来の夢や目標をもつことで、それを達成するために自分のよさに気付くきっかけにつながることが考えられる。さらには、「自分にはよいところがある」ことに肯定的回答をしている児童生徒は、「自分の良さを人のために生かしたい」と思う傾向もあることがわかるが、「はい」と肯定的な回答した児童生徒は3名、「どちらかといえば、はい」とやや肯定的な回答した児童生徒は11名であった。加えて、「将来の夢や目標を持っている」ことや「自分には良いところがある」ことに対して、肯定的な回答をしている児童生徒は、「将来のことについて話をする」機会があると、「今後やりたいこと、挑戦してみたいこと」として、勉強することを多く回答する傾向がある。対象児童生徒にとって、教育支援センター等における主体的な活動は、成就感や自信をもつことにつながっているといえる。今後は、自分の良さを生かすことの意義を実感し、学習意欲の向上を図るとともに、「社会参画」の視点をもってよりよい社会的自立に向けた意識の変化につなげていくことが課題であると考えられる。

#### ⑤ 本事業を継続的に利用している児童生徒の経年変化（抽出して分析）

##### ⑤-1 通所日数の変化について（図 32、図 33）

- 令和3年度から本事業を利用している1名の月ごとの通所日数をまとめると、継続的に通所が行えている（図 32）。
- 令和6年度から本事業を利用している14名の月ごとの通所日数を比較すると、6割近くの月で、通所日数が増加している。「変化なし」や「通所が減った」月も定期的な通所が行えている（図 33）。

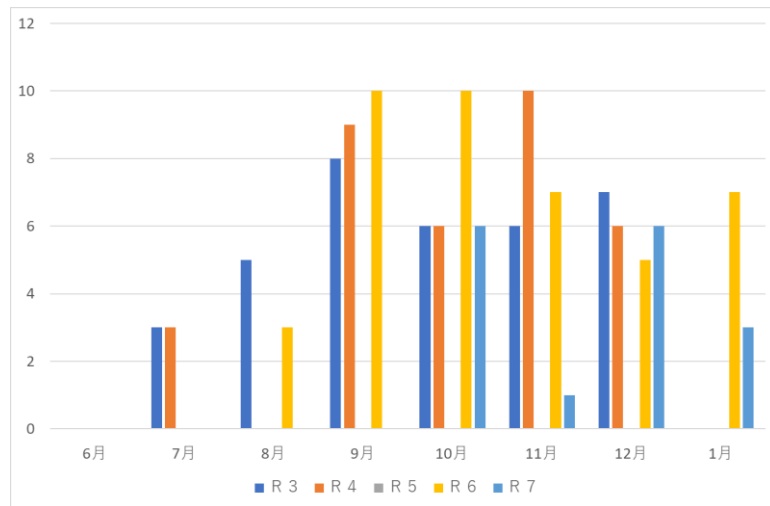


図 32 継続児童生徒の通所日数（R 3 から利用 R 5 は未申請）

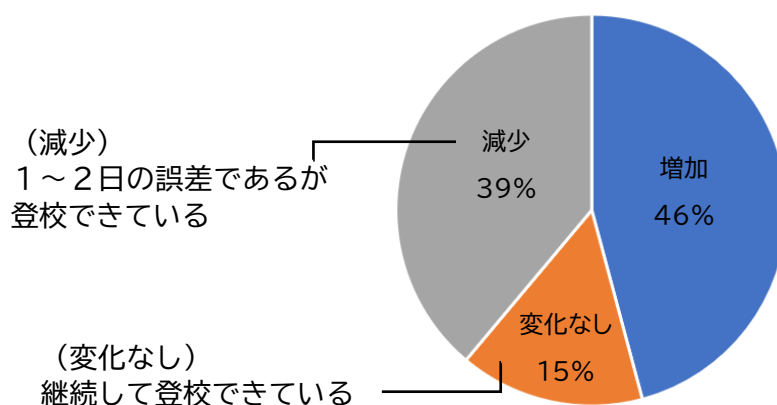


図 33 継続児童生徒の通所日数（R 6 からの増減 14 名）

#### ⑤－2 本事業を継続的に利用している児童生徒の経年変化の考察

通所日数の経年変化の結果（抽出して分析）から、本事業を令和 3 年度から継続して利用している児童生徒は、継続的に通所することができていることがわかる。また、昨年度から継続して利用している児童生徒の月ごとの通所日数を比較すると増加傾向にあり、本事業による支援を継続的に利用することで、当該児童生徒の継続的な通所につながっていることが考えられる。

#### ⑥ 関係施設・団体対象アンケート

##### ⑥－1 児童生徒及び保護者の様子の変化について

##### ○ 個別の活動の場面における児童生徒の様子の変化について（図 34）

事後：質問「貴施設における個別の活動の場面で、当該児童生徒の様子に変化はありましたか。」

- ・ 「変化があった」と肯定的回答した関係施設・団体は 8 団体（全体の 67%）である（図 34）。

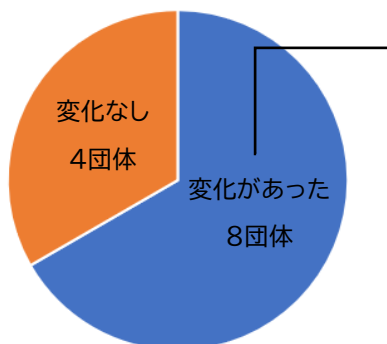


図 34 児童生徒の様子の変化  
（個別の活動の場面）

（具体的な記述）

- ・ 意欲的に活動するようになった。
- ・ 再び家に引きこもる期間があっても、日中活動を取り戻し意欲的に動けるようになってきている。
- ・ 特技を生かすことができる場所として、前向きに通所した。
- ・ 当初は集団への参加が困難であったが、現在は集団内で堂々と自己主張ができるまでになった。
- ・ 自ら学習に取り組もうとする児童生徒が増えてきた。
- ・ 自主学習の後、カードゲームなどを行っている際に、笑顔が見られた。
- ・ 事業のおかげで、通級の利用回数を増やすことができた。
- ・ 利用回数が増えることで、少しずつ担当職員と関係が深まり、笑顔で活動したり話したりする場面が増えた。

○ 集団の活動の場面における児童生徒の様子の変化について（図 35）

事後：質問「貴施設における集団の活動の場面で、当該児童生徒の様子に変化はありましたか。」

- ・ 「変化があった」と肯定的回答した関係施設・団体は9団体（全体の75%）である（図 35）。

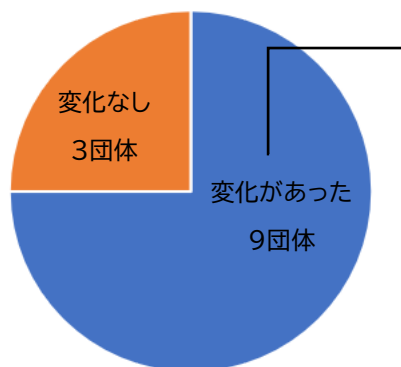


図 35 児童生徒の様子の変化  
（集団の活動の場面）

（具体的な記述）

- ・ コミュニケーション能力が向上した。
- ・ 面倒くさがる様子があっても、取り組む姿勢が保たれている。
- ・ 得意分野について周囲に評価されることに喜びを感じていた。
- ・ 以前よりも周りの児童生徒と関わりをもつことができるようになった。
- ・ 集団内での役割意識が高まり、相互に協力して活動を遂行できるようになった。特に下級生への適切な助言や支援を行うなど、精神的な成長があった。
- ・ 行事などのときに積極的に話しかけるなど、児童生徒同士の交流が見られた。
- ・ 4人（大人3人と本人）でボードゲームをした際、リラックスした様子で声を出していた。
- ・ 利用回数が増えたことで、通級者同士の交流が生まれ、コミュニケーションスキルの向上が見られた。
- ・ 回数を重ねることにより、友だちも増え、楽しく遊ぶ姿が見られた。

○ 集団の活動の場面における児童生徒の様子の変化について（図 36）

事後：質問「当該児童・生徒の保護者との関わりに変化はありましたか。」

- ・ 「変化があった」と肯定的回答した関係施設・団体は8団体（全体の67%）である（図 36）。

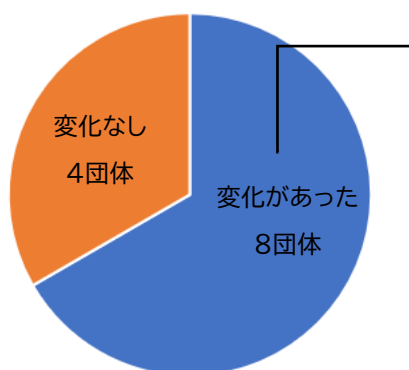


図 36 児童生徒の様子の変化  
（集団の活動の場面）

（具体的な記述）

- ・ 施設の活動や行事に対して協力的になった。
- ・ 保護者の意欲も向上していると思われる。
- ・ 学校へ登校することができる日と併用して教育支援センターへ通所しようとする時、躊躇なく教育支援センターへ通所することができた。
- ・ 生徒の変容が保護者の安心感に繋がり、家庭内での見守りにも肯定的な変化が認められる。保護者自身の自己効力感の高まりが見られた。
- ・ 送迎のときに職員と話ができる保護者が増えた。
- ・ 電話で家の様子を話してくれた。
- ・ 安定した通級をしやすいことで、児童生徒の良い変化が見られ、それにより保護者も精神的に安定し、当施設に対して好意的な印象を持ていただくことができた。
- ・ 担当職員以外の職員とも会話が増え、表情も明るくなった。

○ 集団の活動の場面における児童生徒と保護者との関係の変化について（図 37）

事後：質問「貴施設に通うことにより、当該児童生徒と保護者との関係に変化は見られましたか。」

- ・ 「変化が見られた」と肯定的回答した関係施設・団体は7団体（全体の58%）である（図 37）。

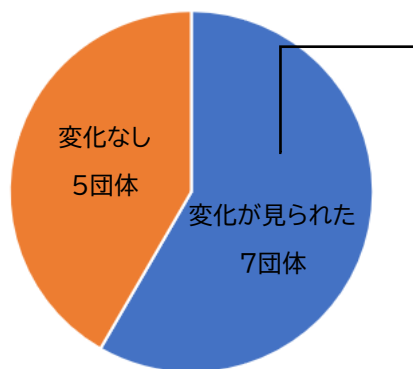


図 37 児童生徒の様子の変化  
(集団の活動の場面)

(具体的な記述)

- ・ お互いを理解しようとする様子が見られた。
- ・ 互いに意欲的になり、意欲的になると関係性が良くなる。
- ・ 無理をして通所することではなく、連絡すればすぐに迎えに来てくれるという安心感を与えることで、信頼感を高めていた。
- ・ 当初の緊張感や焦燥を伴う関係から、生徒の成長を保護者が信頼して見守る安定した関係へと移行した。互いを尊重し合える適切な心理的距離が保たれつつある。
- ・ 保護者が行事への送迎をしてくれた。活動に必要な物を用意してくれた。
- ・ 児童生徒の通級の増加により「できる」ことが増え、家庭での話題の中で共有する機会が増え、保護者から児童生徒を「褒める」きっかけ作りになった。
- ・ 通級が安定したことで、外出が増えたり、在籍校に気持ちが向いてきたりするなど、活動範囲が広がった。

## ⑥-2 教育支援センター等における連絡体制について

### ○ 保護者と教育支援センター等の連絡体制について (図 38、図 39)

事後：質問「現在、保護者とは、どのような手段で必要な連絡を取り合っていますか。(複数回答可)」

事後：質問「現在、保護者とは、週あたり、どの程度の連絡を取り合っていますか。(複数回答可)」

- ・ 保護者との連絡手段については、「電話」と回答した団体が 11 団体、「対面でのやりとり(面談や訪問など)」と回答した団体が 8 団体、「メール」と回答した団体が 5 団体である(図 38)。
- ・ 保護者との連絡頻度については、「必要時のみ」と回答した団体が 8 団体である(図 39)。

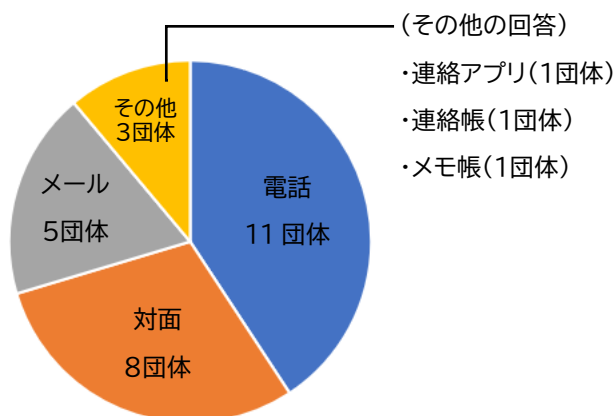


図 38 保護者との連絡手段

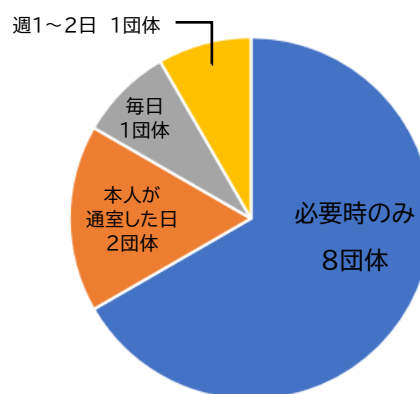


図 39 保護者との連絡頻度

### ○ 在籍校と教育支援センター等の連絡体制について (図 40、図 41)

事後：質問「現在、在籍校とは、どのような手段で情報共有を行っていますか。(複数回答可)」

事後：質問「現在、在籍校とは、週あたり、どの程度の連絡を取り合っていますか。(複数回答可)」

- ・ 在籍校との連絡手段については、「電話」と回答した団体が 10 団体、「対面でのやりとり(定期的な打合せなど)」と回答した団体が 8 団体、「メール」と回答した団体が 7 団体、「文書」と回答した団体が 5 団体である(図 40)。
- ・ 在籍校保護者との連絡頻度については、「必要時のみ」と回答した団体が 8 団体である(図 41)。

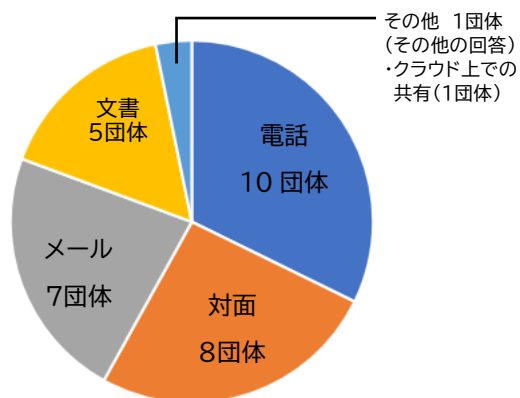


図 40 在籍校との連絡手段

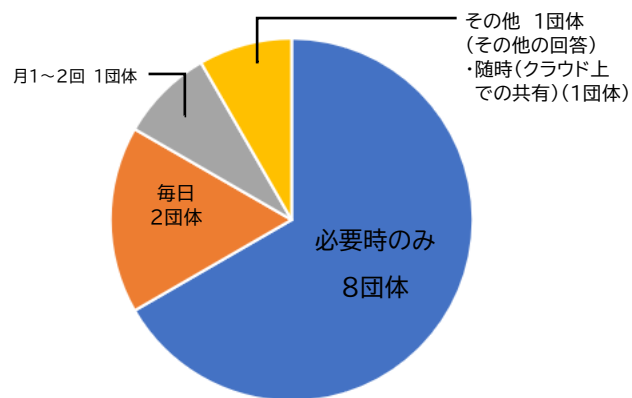


図 41 在籍校との連絡頻度

○ 在籍校と教育支援センター等の連絡体制について (図 42、図 43)

事後：質問「貴施設での児童生徒に関する内容について、在籍校に対して連絡することはありますか。」(「はい」と答えた児童生徒に対して) それは、どのような内容ですか。(複数回答可) 」

- 当該施設での児童生徒に関する内容について、在籍校に対して「連絡することがある」と回答した団体は 11 団体である (図 42)。連絡の内容については、「生活の様子」と回答した団体が 10 団体、「体験活動の様子」と回答した団体が 9 団体、「友達とのかかわりの様子」と回答した団体が 7 団体、「学習の様子」と回答した団体が 6 団体である (図 43)。

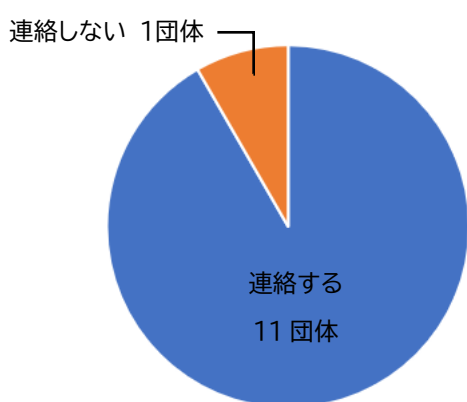


図 42 在籍校への連絡

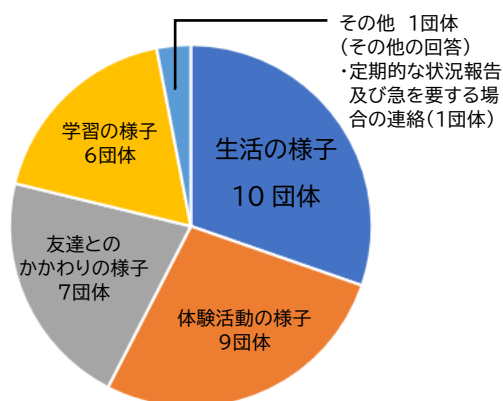


図 43 在籍校への連絡の内容

○ 在籍校と教育支援センター等の連絡体制について (図 44、図 45)

事後：質問「当該児童生徒の生活面でできるようになったことについて、在籍校に連絡していますか。」

事後：質問「当該児童生徒の学習面でできるようになったことについて、在籍校に連絡していますか。」

- 当該施設での児童生徒に関する内容について、在籍校に対して「連絡することがある」と回答した団体は 11 団体のうち、「生活面でできるようになったこと」について連絡している団体は 11 団体 (100%) である (図 44)。また、「学習面でできるようになったこと」について連絡している団体は 9 団体 (全体の 81%) である (図 45)。

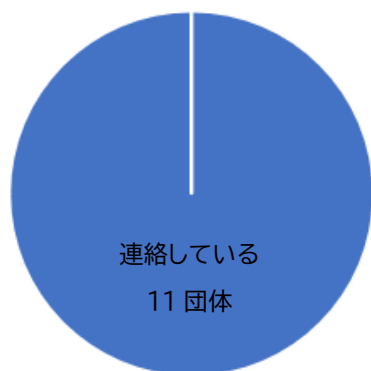


図 44 生活面の連絡

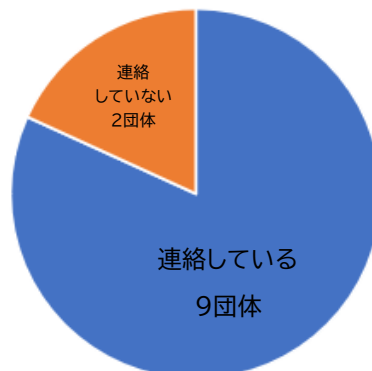


図 45 学習面の連絡

○ 在籍校と教育支援センター等の連絡体制について（図 46、図 47）

事後：質問「在籍校での児童生徒に関する内容について、在籍校から連絡が来ることはありますか。（「はい」と答えた児童生徒に対して）それは、どのような内容ですか。（複数回答可）」

- ・ 在籍校での児童生徒に関する内容について、在籍校から「連絡が来ることもある」と回答した団体は9団体である（図 46）。連絡の内容については、「一日の活動内容」と回答した団体が5団体、「学校行事の連絡」と回答した団体が4団体、「一日の活動時間」と回答した団体が2団体、「学級の連絡」と回答した団体が2団体である（図 47）。

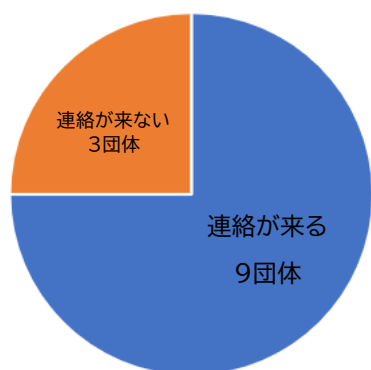


図 46 在籍校からの連絡

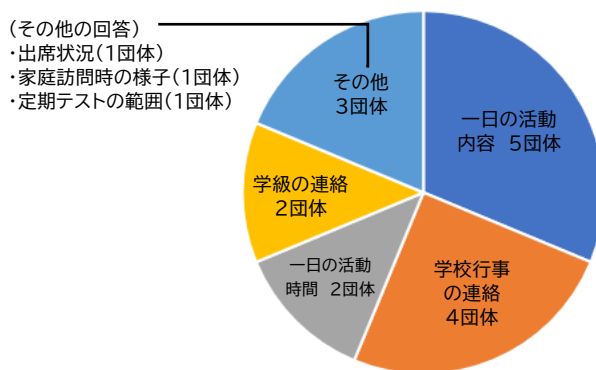


図 47 在籍校からの連絡の内容

○ 在籍校と教育支援センター等の連絡体制について（図 48）

事後：質問「在籍校の職員が訪問し、児童生徒に関する情報交換を行う場を設けていますか。」

- ・ 「情報交換を行う場を設けている」と回答した関係施設・団体は7団体（全体の58%）である（図 48）。

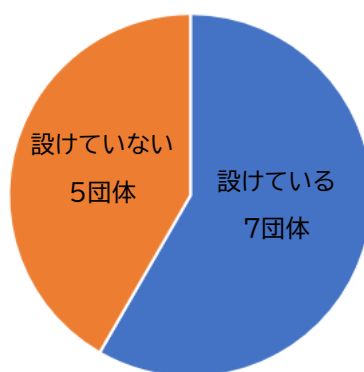


図 48 情報交換を行う場を設定

## ○ その他、児童生徒に見られた様子の変化について

事後：質問「その他、本事業に申請したことで、当該児童生徒の姿に変化が見られた場面があれば教えてください。」

### 【「その他に見られた当該児童生徒の姿の変化」についての記述】

- ・ 体験活動や行事への参加が増えた。
- ・ フリースクールでの活動や通所が安心してできることで、一度引きこもる期間があっても、再度通所できるようになった。
- ・ 今回は行事实施後の申請であったため、申請したことでの変化は見られなかった。
- ・ 生徒本人の自覚的な変化は少ないが、本事業による支援が通所の物理的な障壁を低くし、集団活動への積極的な参加を側面から支える基盤となっている。
- ・ 申請直後の体験活動に申し込んだ。自分で通所できるよう、SSW の協力を得て、自宅から教育支援センターまで自転車で行く練習をした。
- ・ 居場所の広がり。
- ・ 経済的支援により定期的な通所が可能になったことで、表情が明るくなり、学校への登校に繋がりがやすくなった。
- ・ 通所が定着し、自信がついて在籍校に通えたり、外に出かけたりするなど行動範囲が広がった。
- ・ 通所できるようになることで、家庭での TV ゲームを利用する時間が減り、表情も明るくなった。

## ⑥-3 関係施設・団体対象アンケートの考察

### 1) 児童生徒の様子の変化について

アンケート結果から、教育支援センター等における活動を通じて、児童生徒の様子に一定の変化が見られていることがうかがえる。個別の活動の場面においては、活動への参加姿勢や意欲、落ち着いて取り組む様子など、児童生徒一人一人の状況に応じた前向きな変化が見られたとの回答が寄せられている。

また、集団での活動の場面においても、他者との関わり方や集団の中でのふるまいに変化が見られたとする回答が一定数確認された。施設職員と保護者との関わりについても、連絡や情報共有を通じて関係性に変化があったと回答する施設が見られた。保護者との定期的なやり取りが、家庭での児童生徒の理解や関わり方の改善につながり、結果として児童生徒の様子の変化を後押ししている可能性が示唆される。

加えて、教育支援センター等への通所を通じて、児童生徒と保護者との関係に変化が見られたとする回答も確認された。第三者である施設が関与することで、家庭内での関係性が緩和され、相互理解が深まる契機となっていることが考えられる。

### 2) 教育支援センター等における連絡体制について

アンケート結果から、教育支援センター等では、保護者及び在籍校との間で、複数の手段を用いた連絡体制が構築されている状況が明らかとなった。電話や文書、対面、ICT 等を活用し、必要に応じて柔軟に情報共有が行われていることがうかがえる。

保護者との連絡については、児童生徒の様子や活動状況、生活面での変化などが定期的に共有されており、家庭と施設が連携しながら児童生徒を支援する体制が整えられていると考えられる。また、連絡頻度についても、児童生徒の状況に応じて適切に調整されている様子が見られた。

在籍校との連絡体制については、学習面や生活面でできるようになったことを中心に、教育支援センター等から在籍校へ情報提供が行われているケースが確認された。これにより、学校側においても児童生徒の状況を把握しやすくなり、在籍校での指導や評価につなげやすい環境が形成されていると考えられる。

一方で、一方で、在籍校からの連絡内容は、日常的な活動や行事に関する情報が中心となっており、学習面に関する情報共有の充実が今後の課題であると考えられる。

## ⑦ 成果の普及に関する取組

- ・ 不登校児童生徒に対する支援連絡協議会等において、事業の趣旨について周知した。
- ・ 本事業のリーフレットの配付や県公式 SNS を活用により、一層の周知に努めた。
- ・ 県教育委員会のホームページにて、本事業の成果について掲載することで、本事業の成果の普及に努めた。
- ・ 「学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会」において、不登校児童生徒の社会的自立に向け、本県における不登校児童生徒の実態に応じた効果的な支援の在り

方について共有するとともに、教育支援センターやフリースクール等の民間施設・団体と教育委員会等が、相互理解を深め、連携強化を図った。その際、本事業の周知やこれまでの成果等について普及した。

- ・ 本事業を実施するにあたり、支給対象者の枠組みを見直し、これまでの就学援助の認定を受けている者に加え、住民税非課税世帯に該当する者についても支給対象者に含めることとした。本事業における支給対象者の条件について検討し、支援の拡充を図った。その結果、住民税非課税世帯に該当する保護者からの申請が確認されており、本事業の取組による成果の一つであるといえる。

#### (6) 今後の課題

- ・ 経年変化分析の結果からは、特に図 16「所属校との関係の変化」について年度ごとの回答結果にばらつきが見られる。今後、保護者と学校（教育支援センターやフリースクールなどの民間施設・団体を含む）の連絡体制を構築・強化するための具体的な手立てを検討していく必要がある。加えて、その取組による保護者の意識の変容について継続して調査していく。
- ・ クロス集計の結果から、特に表 11 から表 13 で示すとおり、「将来のことについて話をする」などの機会があると、「今後やってみたいこと、挑戦してみたいこと」として、勉強することを多く回答している児童生徒が多い。これらの結果について、学校の教員だけでなく、親の会などを対象とした連絡会などを通して、保護者に対しても周知していく。また、市町教育委員会や教育支援センター等と連携し、児童生徒の学習意欲を高めるための有効な働き掛けについて協議を行い、児童生徒の社会的自立に向けた支援の充実を図る。
- ・ 本事業を継続的に利用することで、対象児童生徒に対する「人間関係形成」や「自己実現」に関する効果が確認できた。今後は、経済的支援をすることによる児童生徒の社会的自立に向けた影響について、詳細に把握するための調査方法を検討するとともに、在籍校及び教育支援センター等が、学習面を含めた情報共有の在り方や連携の質を高めることで、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、将来に向けた「自己実現」につながる連携体制の構築・強化などについて、より詳細な分析を行えるようにする。

### 3 文部科学省との連絡担当者

◇所 属 栃木県教育委員会事務局義務教育課  
◇役 職 指導主事  
◇氏 名 古平 真一郎  
◇電話番号 028-623-3392  
◇E-mail アドレス kodairas2401@pref.tochigi.lg.jp  
◇書類送付先  
(〒320-8501) 栃木県宇都宮市塙田 1 - 1 - 20